

日交研シリーズ A-681  
平成 27 年度共同研究プロジェクト  
欧米を中心とした交通インフラ整備・維持管理・更新の  
財源調達と組織形態に関わる研究  
刊行：2017 年 4 月

### 英米の公共政策に関わる 3 つの論文

## Three Papers on Public Policies in the United States and The United Kingdom

主 査 加藤一誠（慶應義塾大学教授）

Kazusei KATO

### 要 旨

本報告書は 3 編の書下ろし論文から構成されている。

第一論文は、齋藤雅樹氏によるアメリカの道路財源の現状と課題をまとめたものである。アメリカでは複数年度にわたる予算計画が組まれているが、財源となる連邦道路信託基金の歳入だけでは不足し、2008 年以降は一般財源から資金が繰り入れられている。そのため、結論では以下の 3 つが求められている。(1) 連邦政府や州政府による利用者の課金システムの構築、(2) 州や地方レベルにおける費用対効果にもとづく予算配分、(3) 道路の渋滞状況や整備状況などの評価指標にもとづく予算配分であり、維持管理水準によって資金の追加配分やペナルティを可能にするものである。

第二論文は、小島克巳氏によるロンドン・ヒースロー空港第三滑走路の整備に関する論点整理である。政府は滑走路整備を決定したが、この計画に対する国民的合意は得られていない。そして、整備財源の調達方法も不透明である。なぜなら、Heathrow Airport Limited は民間資金による整備を主張するが、公的資金が必要になるとの指摘もあるからである。また、旅客サービスの料金水準をさらに高い水準に引き上げることも必要とされている。そして、合意を得られない最大の問題は空港周辺の騒音の悪化である。

第三論文は立原綾乃・加藤一誠によるアメリカ連邦政府のメディケイド補助金に対する政党の影響を分析したものである。メディケイドは州政府の資金に連邦補助がマッチングされるため、連邦議会において審議される。そこで、1 人当たりのメディケイドに対する連邦補助額に対し、共和党議員数は負の影響を及ぼしていることを明らかにした。このことは先行研究において共和党議員数が道路の連邦補助を増加させたこととは対照的であり、いわゆる州民の保守性は社会保障に対する連邦補助を縮小させることを意味している。

キーワード：連邦道路補助、道路の維持管理、ロンドン・ヒースロー空港、メディケイド、公共選択

Keywords : Federal Highway Aid、Highway Maintenance、Heathrow Airport、Medicaid、Public Choice